

図 4. 北アメリカ大陸の各メガシーケンス基底層の分布図

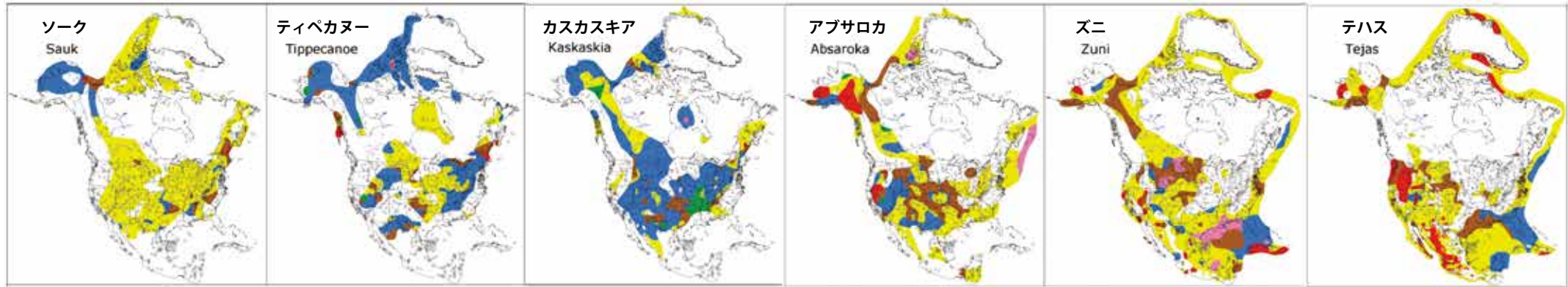


図 5. アフリカ大陸の各メガシーケンス基底層の分布図

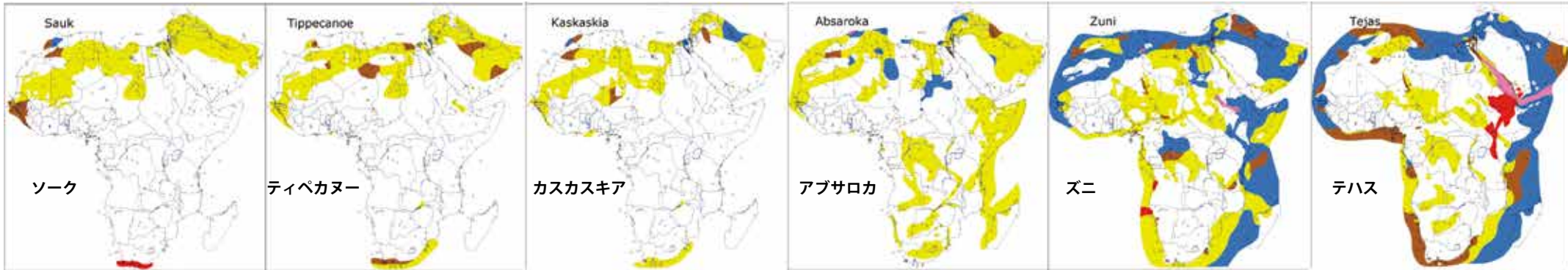
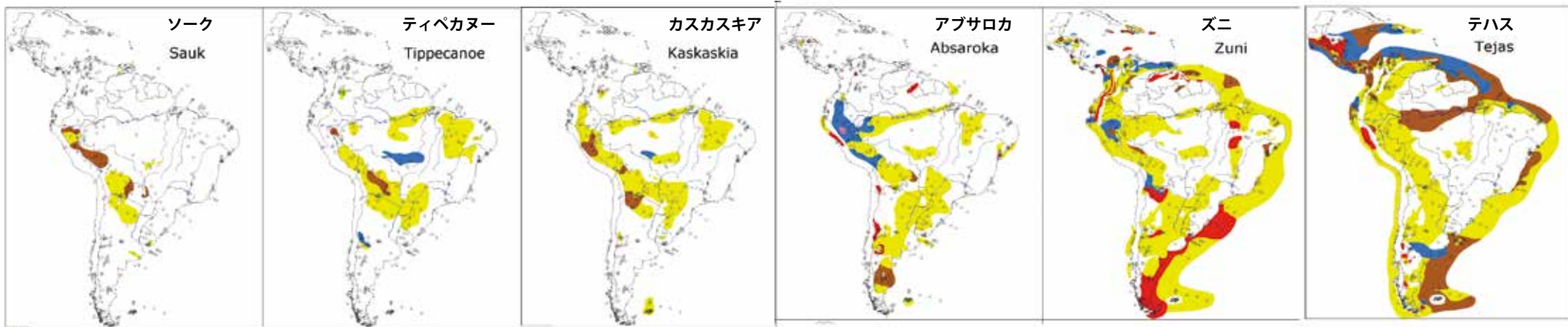


図 6. 南アメリカ大陸の各メガシーケンス基底層の分布図



6つのメガシーケンス全体の岩石分布図

左上：北アメリカ大陸（本文図3に同じ）

右上：アフリカ大陸赤道以北

下：南アメリカ大陸

それぞれ、南西方向から北東方向に高度30度から見下ろすように見た図。岩石の深度は、北アメリカ大陸では260倍、アフリカ大陸では540倍、南アメリカ大陸では450倍に拡大し、岩石の種類の違いを見やすくしています。

図では各大陸とも、ソーク、ティペカヌー、カスカスキア、アブサロカ、ズニ、テハスそれぞれのメガシーケンスの堆積が見られ、下から上に重なっています。ただし、大洪水の時に水かさが増すにつれて覆われた領域が増え、堆積した領域も増えたと考えられます。堆積した岩石の量は、ズニメガシーケンスが最も大量にあり、この時期が大洪水の水かさが最高潮に達した時期だと考えられます。

これらは、1500以上の地点のボーリングコアとボーリング孔の調査によって得られた試料のデータを元に、創造調査研究所のティム・クラリー博士らが、地質アプリに1mごとの深度の岩石タイプを入力し、各大陸の岩石図として表したものです。日本やまだマッピングされていない他地域でも、同様のデータ収集と入力が行われていけば、地球全体で6つのメガシーケンスで堆積した岩石が明らかになり、大洪水が地球規模であったことがわかるでしょう。

